

# Deutsches Turnfest に参加して

宮 本 夏 子

## 1. 西ベルリンの第一印象

ベルリンは、東ドイツの真ん中にあります。第二次世界大戦の後、ベルリンの壁をはさんで、東西に分断されており、国境では、東にソ連の旗、西に、米・英・仏の旗がなびいています。私が訪れた西ベルリンは、西側3国の共同管理下にあります。45 kmに及ぶベルリンの壁の西側は、赤や黄色のペンキで着色され、敗戦の痛ましきなどみる影もありませんでした。それにひきかえ、東壁は、廃墟と化した建物や、レンガ造りの家の壁や屋根の一部が、崩れ落ちているのが見えました。西ベルリンから東ベルリンに入るや否や、20年くらい時代を遡った気持ちになるから不思議です。

バスは緑の田園地帯を走っていきます。時がゆっくりと流れ、私の身体の血液も、何となく、ジワーッと沈んでいく気がします。この静けさは、安息日のせいでしょうか。どの店の扉も重く閉じられ、車道かと思う程広い歩道には、高さが5 mもある木々が並び、木葉が風にゆれています。もう、10時だというのに、人っ子一人みかけることもなく、ちょうど、日本でいえば、早朝の風情です。西ベルリンの町は、テーゲル湖や、ハーフェル川などの豊かな水に恵まれ、緑に囲まれた端正な顔を私に見せてくれました。

## 2. Turnfest 会場

ホテルを出ると、1時間前には、あれ程、静かだった通りが、人でいっぱいになっていました。地下鉄や、バスから降り立った集団が、後から後から、1つの方向に向かって歩いているのです。まとまったユニフォームを着て、楽しそうに話をかわしながら……。子供もいます。お年寄りもいます。それぞれの年代の男女が、背筋を伸してさっそうと歩いています。みんな、Turnfest に参加する人達です。Turnfest の会場となる国際会議センター（ICC会場）は、我々のホテルから地下道で100 mも離れていませんでした。ICCの巨大な白い建物に、万国旗がよく似合います。2月には、農業博覧会が開かれ、各種の大規模な展示もあり、ヨーロッパ見本市の中心をなす建物です。ロケットを横に寝かしたような3階建ての陸橋が、ICC会場と見本市会場とを連絡しています。あの、多勢の老若男女は、この見本市会場に吸い込まれていきます。



見本市会場にて

Turnfest を筑波大学の佐伯氏は、次のように説明しています。「ツルン・フェスト — 1860年にコブルクで開催されて以来、27回を数えるツルン・フェライン（クラブ）の全国的なスポーツ祭典である。1933年のシュツツガルト以後、5年に1度の割で開催されてきたが、今回はベルリン市制750年を記念して一年早く行われた。1811年、ヤーンがナポレオンの支配を脱し、統一国家の形成という悲願の達成に向けて、ドイツ国民の自覚を促し、青少年の心身の錬磨のために考案・工夫したツルネンは、ナショナリズムの高揚の時流によって多くの愛好者を集め、急速に全国に広がり、各地にクラブ（ツルン・フェライン）を組織した。その後、強烈なイデオロギー性ゆえに政治的奨励と弾圧の歴史を経て、第二次大戦後、伝統的なツルン愛好者の団体としてツルン連盟が組織され、いまや会員三百万人を越えるドイツ・スポーツ連盟の中で最大のスポーツ団体に発展した。……つまりツルン・フェストはスポーツの楽しさを讃えそれを広めると同時に、人間性の発展と社会福祉への貢献につながるスポーツの途を求め、知的に考える場でもあるのだ。」さらに、板垣氏は、「この Turnfest という言葉は、一般に体操祭と訳されているが、Turnen を一概に体操と言うことはできず、むしろ体育祭という意味にとらえた方が正しい。実際にプログラムを見ても、その内容は多様で、体操競技、新体操競技、トランポリン、ボール競技、フープ競技、トリム運動、オリエンテーリング、簡単な陸上競技、ドイツ体力章検定……などが含まれ、これに加えていわゆる体操（Gymnastik）の演技発表が行われている。この体操関係のプログラムには、Lehr und Schauführungとなっており、方法的・教授学的な方向付けを見い出す機械を提供するために、グループや大学や、体操学校などが、動きの可能性を発表し、実例を示し、授業や学習のモデルを出すような内容になっている。」と説明している。ドイツ黄金計画に始まるこの大会は、西欧、北欧の国々の参加を得て、盛大になっています。会場は図1の会場図のように25個の会場とICC会場とに分けられています。1つのホールが1つの体育館です。それが25個も林立していると考えて下さい。これは、室内で行われる運動の案内図で、その他の屋外スポーツは、Messedammの通りを隔てた向こうに、スプリントやメディスンボールに革ひもをつけて投げる Schleuderball などの能力テストや、テニス、サッカー等が準備されています。

## Übersichtsplan Messegelände und ICC

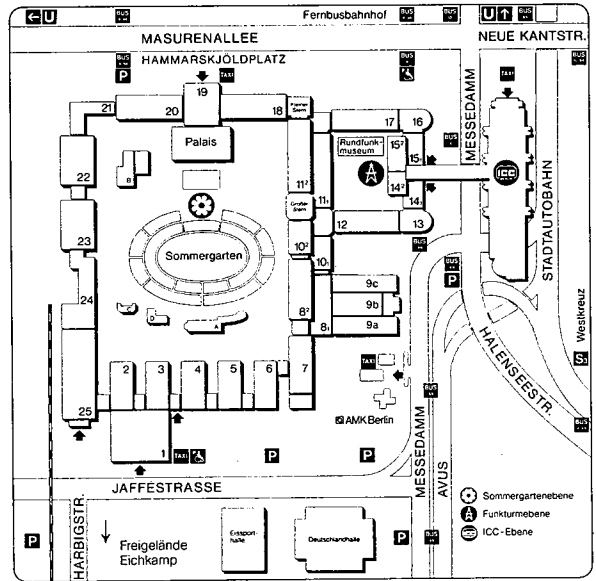


図1 会場図

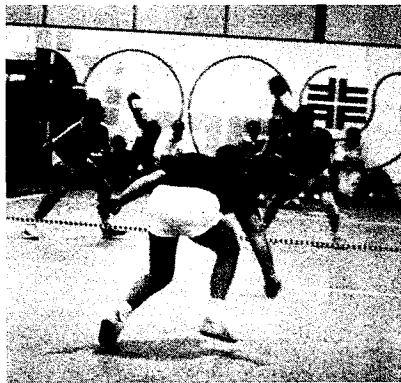
私は、プログラムをもらおうと、メッセホール1のインフォメーションに並びました。受付の方

Deutsches Turnfest に参加して

は、まるでパスポートをみる入管のように無表情に仕事をさばっていました。不運にも、私の前で、プログラムが売り切れてしまいました。受け付けの方が、カウンターの向こうから首を振った時の口惜しさといったらありませんでした。ホール2は、各団体の紹介や、ドイツ各州のスキー地や、観光地のパンフレット及び、この大会のパンフレット等が配布されています。私は、ベルリン広場というコーナーに立ち寄った折、案内係にプログラムが品切れになったことを告げると、「私は2冊持っていますから1冊さしあげます。」と、252ページにも及ぶFestführerをくださいました。私は、顔が赤くなる程うれしく、お礼に、折り鶴を一羽、カウンターに置いてきました。このホールでは、Turnfestの歴史とともに、各運動の変遷が写真やビデオで紹介されていました。子供の動きを中心にとりあげたKinderturnenのコーナーからは、運動は、子供の健やかな成長のためにあり、決して勝敗が目的ではないという理念が伺えました。各ホールに通じる通路には、スポーツ店や運動器具店が商品の宣伝をしたり、記念品の売店、そして、各大学のサークルが、自分達で工夫したスポーツの指導法をVTRで紹介したり、実践させてくれたりするコーナーが続きます。そうこうする内に、私は、器械運動の検定や試合用ホールをいくつか通り過ぎました。20台余りの跳馬がズラッと並び、反対側には、鉄棒がセットされています。もちろん、助走がたっぷりとれるスペースも確保されています。次のホールは、タンブリング中心のマットが並べられていました。表1は、その一部ですが、参加者は、能力に応じてテストを受けることができるようになっていきます。



子供の体操



プレルバル

表1

Wettkampfkarte - Gerätturnen - Kinderturnabzeichen

Wert	1	2	3	4	8	Pkt.
Boden	<p>Aus der Schußstellung, Rolle vorwärts, Streck sprung</p>	<p>Aus der Schußstellung, Rolle rückwärts über den Hochstand in den Stand</p>	<p>Aus dem Angehen, Rad, danach ¼ Drehung in die Bewegungsrichtung und Weitergehen</p>	<p>Streck sprung, Sprungrolle, Streck sprung</p>	<p>Anlauf, Handstütz-Überschlag vorwärts</p>	
Sprung	<p>Aufkriechen auf den Kasten quer (100-110), Aufrichten in den Stand auf dem Kasten und Niedersprung</p>	<p>Grätsche über den Bock quer (90-100)</p>	<p>Drehhocke über den Kasten quer (100-110)</p>	<p>Hocke über den Kasten quer (100-110)</p>	<p>Hocke, Kasten längs (120)</p>	

ドイツ体操祭プログラム日程表

◎ 特別発表

- \* 開会式：5月31日（日）：20:00、オリムピックスタジアム  
18:00、予行練習
- \* 閉会式：6月7日（日）：14:00、オリムピックスタジアム
- \* 体操振興の催し：6月3日（水）：20:00、ハーゼンハイデ
- \* ドイツ体操クラブ合同発表：6月6日（土）：マイフェルト
- \* クラブの行進：6月7日（日）：カイザーダム
- \* 体操の演技発表：6月1日（月）：9:00 - 17:00、  
6月4日（木）：9:00 - 17:00、  
6月5日（金）：9:00 - 12:00、  
インターナショナルコンgresホール（ICC）
- \* 体操クラブの発表：6月1日（月）：9:00 - 18:00  
6月5日（金）：9:00 - 18:00  
メッセ（博覧会場）2-6ホール
- \* マチネー：6月6日（土）：10:00 ドイツチェランドホール（DH）
- \* 国民スポーツの体操および特別発表：6月5日（金）：DHまたはアイススケート場  
（ESH）
- \* スポーツショー：6月6日（土）：DH
- \* 各州の発表のゆうべ：6月2日（火）：19:00 メッセゲレンデ
- \* お別れパーティー：6月6日（土）：メッセゲレンデ
- \* 体操祭の響き：6月1日（月）：野外劇場
- \* 動きにおける音楽演奏：6月2日（火）：16:00 DH前広場
- \* シュトラウス名曲集演奏：6月2日（火）20:00 ICC第2ホール
- \* ブラスバンドの行進と大演奏会：6月3日（水）：18:00 市庁舎
- \* 音楽と動き：6月4日（木）：20:00 ESH
- \* 祭典音楽のゆうべ（独奏及び小編成による演奏）：6月5日（金）：20:00  
ICC第3ホール
- \* シンフォニー・コンサート：6月6日（土）：15:00 放送局大ホール

3. 開 会 式

ベルリンの地下鉄は、クーダムを中心に、Uバーン、Sバーンの路線が四方八方に延びています。西ベルリンのどこを掘っても地下鉄が出てきそうです。私は、Uバーンフリーパスを購入しました。この切符は、距離に関係なく、地下鉄に何回乗ったかをチェックするものです。オリムピックスタジアム駅を降り立つと、小雨がパラつきそうな空模様でした。長い木立のトンネルの向こうに、5輪のマークが宙に浮いたように見え、コロッセウムのような形をしたスタジアムがせまります。10万人を収容するというスタジアムに、今日は、8万人の観衆を飲み込んで、Turnfestの開幕です。もう9時だというのに、ドイツの日没は遅い。フラッシュが無くても、写真が写せます。開会式のセレモニーが、私の眼下でフィルムのようにまわり、各団体が、緑の芝生の上に、さまざまな絵模様を織りなしていきます。その内、どこから始ま



スタジアム入口



開 会 式

ったのでしょう。多分、Bundespräsident（ドイツ連邦大統領）Dr. Richard Weizsäckerのあいさつに、観衆が感動した瞬間からだと思います。スタンドの観衆が、二千人くらいの単位で、ワーッと歓声と共に、両手を挙げて立ち上がり始めたのです。そして、その集団がスタンドを時計回りと反対に移動してくるのです。スタンドの観衆が、セレモニーに参加しはじめたのです。気がついてみると、前の人も、後ろの人も、両手を挙げて喜びを表わしています。この波が、スタジアムを怒涛のごとく押し寄せては引いていきます。この波をめぐって一杯かぶった私は、阿波で育った女。「踊るあほうに観るあほう、同じあほなら踊らにゃ損々」とばかりにこの波に乗ることにしました。波が寄せるたびに立ち上がっては、大声を出し、両手を振り上げます。久しぶりに子供のように心をからっぽにできた出来事でした。この日本人の参加は、周囲のドイツ人をより一層沸かしたせえました。このような開会式での参加の仕方は、日本では、見ることも、味わうこともなかった経験でした。我が国の開会式は、観る者も、行う者も緊張し、一つのスタジアムという入れ物の中にピッタリと納まって厳粛にとり行われるのが常です。幼い頃から、そんな式典だけを知っている私にとって、この入れ物を壊してしまいそうな観衆のたぎる血潮は奮きでした。

開会式も終り、私も帰路につくことにしました。スタジアムの8万の人間が移動を開始しました。時刻は真夜中の12時だというのに、ちょうど山の手線のラッシュ時のような人だかりです。私は、前進しない集団の中でイライラしておりました。そんな時、近くにいたドイツ青年が、トランペットを吹き始めました。トランペットの音を待っていたかのように、周りにいた老若男女が、歌い出したのです。私のイライラ気分は、一度に吹き飛んでしまいました。オリンピックスタジアムの小さな駅は、ローマ字のUの字が、黒い空にくっきりとオレンジの光をはなち、ぶきみに浮んでいます。3つしかない駅の入り口はパンクしそうです。Uの光の方から、恐った口調でアナウンスが流れました。客はドッと笑います。ドイツ語の解らない私は、笑いが静まった頃に、人から内容を教えてもらいました。アナウンサーのおばさんは、「こんな小さな駅に、そんなに多勢の人がつめかけたなら、駅が壊れてしまいます。みなさん、きちんと並んで入り口から入りましょう。」と言ったそうです。こんなジョークの飛んだ後、私が駅に入れる頃には、カルテを切る機械は人の流れに対応できず、無料となっていました。日本人なら、儲け時とばかり、改札のアルバイトでも雇うであろうにと思うと、ここでも、ドイツ人の大らかさに笑みさえ浮びました。人間としての心の豊かさを教えられた一日でした。

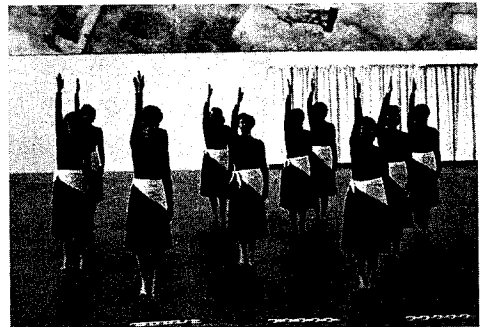
翌朝、5時半にたたき起こされて、オリンピックスタジアムまでジョギングとなりました。男女6人が、つたの葉のからまる中世の建物を楽しみながら、カイザー通りを経て、オリンピック通りに向うのです。会う人ごとに「Morgen」とあいさつをかわしながら、距離にして3kmくらい走ります。スタジアムは、昨夜とはうって変りひっそりとしています。静寂のベールをかぶった緑の芝生がつゆにぬれ、スタジアムの中は、朝もやにけむり、自分がいやに小さく感じます。トラックや幅とびの助走路を走ってみました。1936年に、三段跳びの田島直人選手がこの場所で跳んだと思うと、感無量でした。ベルリンオリンピックの覇者の名前が、聖火台を両脇からはさむようにして刻まれています。高さが8mくらいの銘板です。我々は、日本選手の名前を探しながら、前畑選手が泳いだプールを見に行こうということになりました。スタジアムの裏手にある小さなプールには、水色に澄んだ水が満々とはられていました。一行は、何も言わず、黙って柵にもたれていました。



オリンピック記録銘板前で

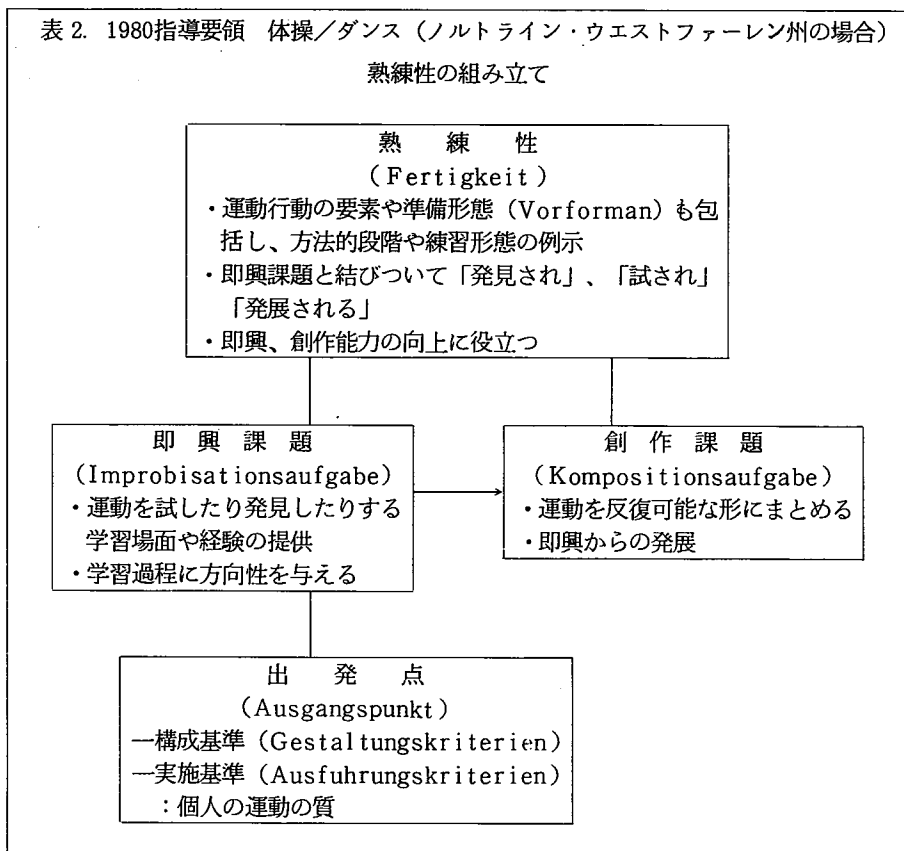
#### 4. ホール4の体操

我々は、このTurnfestの目的を、Lehr und Schauvorführung においていました。体操の動きの可能性と、その体操を学校や社会でどう生かし、発展させるかがねらいです。予定では、6月1日～6月6日(土)までの期間に、ICC会場とホール4で、体操関係(Turnen、Spiele、Gymnastik)の演技が行われます。我々は、グループを2班に分け、各々の会場へ出むくことにしました。私はホール4に向って出発です。10時から、「パートナーとグループの体操」や、幻想的なパントマイムで趣向をこらした「大きい手・重い手」で演技が始まり、ジャズダンス、ショー体操と続けました。特に、この日の最後の発表に、表現体操がありました。人数は30人くらいです。年令でいえば、25才～50才ぐらいの婦人です。種まきから始まって、日照りや嵐のために作物が育たず、農民のすさんでいくさまと、神への信仰心が人間としての救いであるといった構成です。この動きは、パントマイムほど具体化されていず、創作ダンスほど抽象化、ダンス化されていません。ここかしこにくり返しや、左右の動きが取り入れられて、体操のようでもあります。演技終了後に動きが記憶されずに、その動きからかもし出された感情や思想が残ります。これは、ドイツの学校体育が、ダンス領域と体操領域を融合させた結果かもしれません。日本流に、体操とダンスを区別して考えよう、体操だけをとり出そうとしている自分が見え、考えさせられた一日でした。



婦人による表現体操

下図は、日本体育学会35回大会（1984. 10. 19）で発表された「西ドイツの指導要領における体操のとらえ方です。（並木洋子、古川善夫著）前述したように、体操とダンスの領域の統合が行われています。



Turnfest は、人数が7人集まれば、グループとしての参加が認められるといわれます。社会人が体操を健康のために行うのであれば、これはダンスだ、やれ、体操だと区別する必要はないのかもしれない。動く人が、動き易く楽しければ、それでいいのかもしれない。人が、運動をする時、動きにストーリー性を持たせてあげたり、あるいは、美しいレオタードや衣装に凝ったりすることもあります。一般の方々なら、そういう周囲の条件の助けをかりて、私も動いてみようと思うこともあるかもしれません。しかし、私には、それが、あまりに強く前面に出てしまい、より自然に動くという追求を軽んじている発表は、身心の健康を保障しているのかどうか疑問なのです。体操のメッカといわれるドイツには、動きの質の向上や開発を研究している体操学校が、数多く有ります。残念なことに、今大会は、その学校の参加が少なかったのです。人間の動きの良し悪しは、身につけた飾りをとり除いてもなお残る動きそのものであると思います。専門家は、それを追求し、発表していく責任があります。この大会では、あらゆる職種の人が参加し、自分達の体操の方向性を探っていると思われ、そういう意味でも、体操学校の積極的な参加が不可欠ではないでしょうか。

そんな中で、純粋な体操の発表もありました。中高年の婦人によるリズム体操や伸展運動です。平均台やマットを使って、走ってみたり、跳んでみたり、リズムの変化に対応させた動きです。平均台下図のように表側

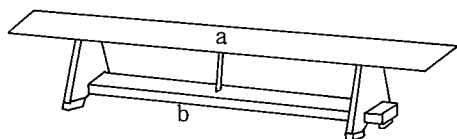
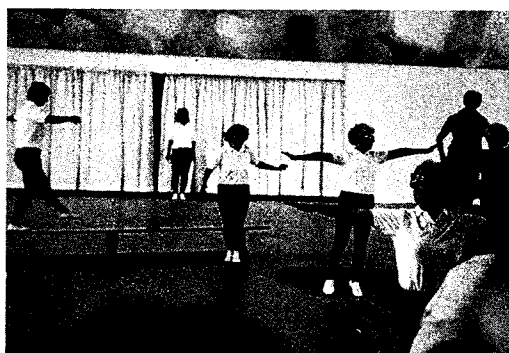


図2 平均台

(a)も裏側(b)も利用できるものです。写真は、裏側を使って平均台を渡ったり、左右に跳んだりしてるところです。マットの上では、両手をひろげてももあげをしています。姿勢がいい上に、動きが速いのです。けっしてむずかしい動きや、ハッとする構成は入っていません。日ごろの練習をそのまま発表しています。そのためか、動きにムリが無く、見ている方も素直になれます。

二枚目の写真は、伸展運動です。ゆっくりと体側を伸ばしたり、背筋を縮めたり、「伸ばす」という1つの動きを深く掘りさげた作品でした。

中高年といえば、フランクフルト体操部が挙げられます。棍棒を持って左右振動をしている写真の中央の人は、71才のおばあさんです。中高年というより老人体操として発表していました。発表時間は20分間有り、2つのグループが、休息をとりながら、入れ替り立ち替り発表しました。週に何回か動いているというだけあって、苦しそうな顔をしている人も見かけず、2拍子の曲にあわせて動く筋肉のよくしまっていて、豊かなことといったら。発表に気おいか無く、肩もスッと下がっています。ここで、一つの発見は、肩をあげたり、腕を耳もとまであげたりする運動が、少ないことでした。老人体操を考える時、老人が楽に体を動かすためには、肩を下げるという事は、重要なことなのかも知れません。会場は老人を思う観客の手拍子がいつまでも続き、私もこういう風に年をとりたいと思いました。



中高年によるリズム体操



伸 展 運 動



棍棒での振動運動



前述しましたが、ドイツ体操学校の参加の減少の中で、ミュンスター大学の「器具を使った体操」が光りました。私のような現場をあずかる教師にとっては、うれしい発表でした。右図のように跳び箱が、 $\square \rightarrow \square \rightarrow \square \rightarrow \square \rightarrow \square$ と変化して使用されていきます。マットや、キャリアカーもすべて運動のための道具として考えられています。たとえば、キャリアカーの手押し部分が鉄棒として使用され、マットを積んだ部分から高さを利用したさまざまな動きが生まれます。単純な動きに、リズムで変化をつけ、動きと動きのつなぎをとっても大事にしています。補助をする人も、補助のみにとどまらず、補助そのものが演技なのです。見ている私も、創造力をかきたてられたものでした。

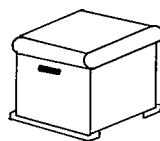


図3 とび箱

以上、心をうたれた演技は、二つの側面を持ち合せていました。1つは、けっして上手にしようとしていないことです。もう1つは、身体にムリな動きを構成の中にとり入れていないということです。体操クラブが、単なる発表のためだけに練習を重ねているグループではないと言えます。競い合い、順位づけをする体操でもありません。体操は、健康というものをみつめて、より豊かな生活を送るための1つの糧にすぎません。今を大切に生きるために、いい汗をかき、身体を動かすのです。日常の精神的なストレスを発散させ、明日への活力と、体操を通して多くの仲間をつくる、そんな意味での体操であったような気がしました。人生に対してチャレンジする命のいぶきと互いの人間を大切に生きていこうとする人間の優しさを私はここで見たのです。

優しさは、いたるところにありました。発表のための準備からかたづけに到るまで、当事者が行います。あとかたづけも演技の1つともうけとれました。演技者は、フロアーがからっぽになった段階でうれしそうに礼をして帰るのです。まさに、「飛ぶ鳥、後をにぞさず」のように。日本では、果してそうでしょうか。国体規模の大会になると、開催県の役員が準備、かたづけに奔走し、裏方さんがたち回っています。演技者は、演技のみを考えていれば良いという気のくばりようです。それはそれで素晴らしいかもしれませんが、ここは違っていました。準備やかたづけは、発表者のマナーではなかろうかとさえ思われました。次に発表する人へのおもいやりを持って演技を終了するということは、「お客様として動いているのでもない、体操の発表が特別なものでもない、共に動く仲間同志」という基本的な考え方が守られているのではないのでしょうか。日本で、「武道の道」などとよく言われますが、ここでは「体操の道」が存在すると思うと、とてもうれしく、心があつくなりました。こんな出来事もありました。演技者が発表時に失敗をしたとしましょう。演技者がだれであれ、観客のだからともなく手拍子がおこります。それは、まさしく励ましの手拍子なのです。発表者が立ち直ると発表者の顔には、観客への感謝とできた喜びの笑みがこぼれます。観



壮年の体操

客は、あたかも自分の肉親が演技をしていて、それを励ましているような雰囲気です。日本で似ているものに、幼稚園の発表会や、我々が幼いころの学芸会があります。その雰囲気を国を挙げて行う Turnfest でかもし出せるのはなぜでしょう。そんなことのできる国民性が羨ましくもあり、世界の広さがうれしくもありました。ああ、こんな体操をやりたくて大学を出たのに……。今の私はいったい何をしているのでしょうか。十数年間、悩み続けていることがらをみせつけられた想いでした。この、人を思いやる心と、人を受け入る抱擁力の大きさ、そして、それに支えられた体操の道を。学校教育の現場にいながら、それを教えることのできない自分を思うと、恥しく、自分が教育者として存在していないことを痛感しました。もう1度、やり直しです。

私は、やり直す意味においても、存在感を得るためにも西ベルリンで何かしようと思いました。朝の7時30分に、ホテルを出て、メッセホール18に向いました。今日は、一人で行動することになりました。私は、ことばが通じるか心配でした。十年前に、少し学んだドイツ語でしゃべるしかありません。会場に着くと、係の人が準備をしていました。私はドイツ体操の検定章をとろうと考えているのです。私は、係の人に、検定章の内容を示してある用紙をみせながらメクチャクチャな構文で話していました。男性名詞や女性名詞などと言っておられません。覚えている単語を並べて、どうかこうにか手続きをすところまでこぎつけました。しかし、細かい事項を記載する段階になると、とうとう、英語の話せる係の人がつれてこられました。私が、誕生日を書く折に、世歴を先に書いてしまったり、年令の欄には、「35才」と不思議なことを書くからでした。なんと、私は、子供にみられていたらしいのです。

テスト内容は、壁にはられていて、Ball, Hüpfen, KeulenBall, Stab, Reifen, Springen の6つでした。その6つの内、5つに合格すれば、検定章をもらえるようになっています。ホール18は、1,500㎡くらいの広さで、各種目毎に、場所をイスで区切ってあります。中央に、検定場所があり、各種目で上達すると、ここで試験をうけられるようになっていました。できればを審査する検定員は4名、各種目のフロアーには技術指導員が2名ずつ配属されています。朝早くからおしかけて、わけのわからぬドイツ語でしゃべりまくっためざらしい訪問者ということも手伝ってか、私が、ちょっと違う動きをしたり、首の使い方が不自然だと、ていねいに動きで示してくれました。各フロアーの指導員の方々が、輪の振動運動の時に、とんでこられるのです。何かと思うと、私の体側の伸び方の方向の修正や、腕と首とのバランスにムリがあるというのです。彼女達は、全身で動いてくださり、私には、彼女達の息づかいまで感じることができるのです。Dankeとお礼をいうとニコッとされ、私が教えられた通りにできた時は、Gut!とほめてくれます。棍棒運動で

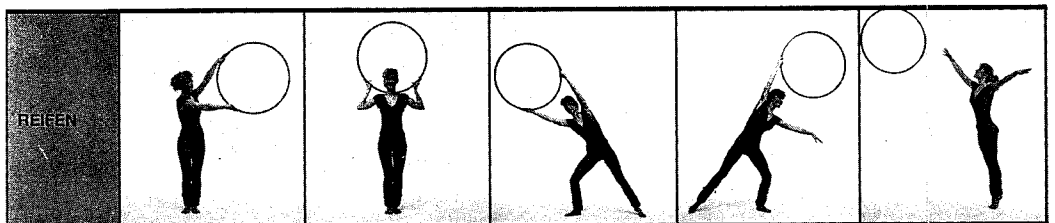


図4 Deutsches Gymnastik Abzeichenの一部

Deutsches Turnfest に参加して

では、動きがエレガントだからと、見本に使ってくださったりもしてくれ、とても好日的でした。私にとって、動きのアクセントのとり方や、力の入れぐあいを教わったことは、大きな収穫でした。3種目ぐらい検定を終わった頃には、後輩も入って挑戦し、うれしい一日でした。



# Urkunde

Deutsches  
Gymnastikabzeichen · 1. Stufe

in Bronze  
erfolgreiche Prüfungen insgesamt: Japan  
Name Natuko Miyamoto  
Nr. \_\_\_\_\_

Ball Hüpfen	Prüfer <u>J. Weisheit</u> Nr. <u>06/127</u>
	Ort: <u>Dresden</u> Datum: <u>3.6.87</u>

Keulen	Prüfer <u>J. Weisheit</u> Nr. <u>09/117</u>
	Ort: <u>Berlin</u> Datum: <u>3.6.87</u>

Ball	Prüfer _____ Nr. _____
	Ort: _____ Datum: _____

Stab	Prüfer <u>J. Weisheit</u> Nr. <u>09/117</u>
	Ort: <u>Berlin</u> Datum: <u>3.6.87</u>

Reifen	Prüfer <u>Kunzla Kchila</u> Nr. <u>08/183</u>
	Ort: <u>Berlin</u> Datum: <u>3.6.87</u>

Springen	Prüfer <u>J. Weisheit</u> Nr. <u>09/117</u>
	Ort: <u>Berlin</u> Datum: <u>3.6.87</u>



Deutsches  
Turnfest  
Berlin 1987  
31.5.-7.6.

Deutscher Turner-Bund

Willmann  
Präsident

Organisationskomitee  
Deutsches Turnfest Berlin 1987  
Marshall-Haus, Messedamm 22  
1000 Berlin 19  
Telefon: 32 10 71

図5 ドイツ体力章検定

以上のように、この大会で、自分なりの体操についていろいろと考えることができました。大きな財産となった点は、自分の身体や視線で動きを表出する際の心の置きどころをさぐれたことです。この Turnfest を観る限りにおいては、ドイツの体操もまた、時代とともに、変りつつありました。日本と同じように、テンポの速い、ハツとする構成や奇抜な動きが好まれ、ダンスとの接点が多くなり、観る側へのアピールが強くなって来ているのです。社会体育の中の体操は、より楽しく、時代に即応した形で普及していくことが大切でしょう。しかし、今後の体操そのものの方向性を決定する大学等、体操を専門に研究している学校の発表が少なかったことから、ドイツもまた、体操／ダンスという領域統合の波から生じる問題で悩んでいる、いや今後の進み方を模索しているのではないのでしょうか。

体操として育てたい動きは、中高年の体操と、フィンランドの動きがありました。ここでは、奇抜な動きはなく、上品で美しい動きでした。ゆったりとした振動運動で、作品をまとめ上げていました。私には、発表者の若さに比較して、下半身の動きの少なさに不満な点もありましたが、身体にムリなく、動きの質の向上に眼を向けた動きでした。動きの質と、「楽しい動き」「かっこいい動き」「奇抜な動き」をどう融合させて育てていけばよいのでしょうか。私個人としては、学校教育の中では、はずみや振動運動、跳ぶ運動などの基本形を伝え、生徒が、社会に出てからいろんな応用形を身につけるといいという気がしております。そして、西欧や、北欧の風土によってつちか

われた人間性と、その豊かさをおもう時、日本人は、日本の風土によってつちかわれた人間性と、日本文化の中からもし出される人間性がにじむような体操がしてみたいと感じるようになりました。単なる、西欧文化の模倣ではなく、形のみが日本的であるという動きでもない、日本人が、ムリなく動ける体操を考えてみたいです。そのためには、私自身が、もっと日本のことや日本文化を知らなければと痛感しているこのごろです。



ヤーンの体操  
(ハーゼンハイデにて)

〈参考文献〉

- 1) Deutsches Turnfest Festführer
  - 2) Deutsches Turnfest programm der Lehr- und Schauvorführungen
  - 3) Deutsches Gymnastik Abzeichen
  - 4) Kinderturnabzeichen
- 以上、Deutsches Turnfest Berlin 1987資料
- 5) 板垣了平(1984): GymnaestradaおよびDeutsches Turnfest よりみた最近の体操の動向について: 日本体育学会第35回大会資料
  - 6) 並木洋子、古川善夫(1984): 西ドイツの指導要領における体操のとらえ方  
—ノルトライン・ウエストファーレン州の場合—: 日本体育学会第35回大会資料
  - 7) 佐伯聰夫(1987): ベルリンのツルン・フェスト  
—競技の儀礼でなく、スポーツのお祭りの楽しさ—: 学校体育12月号第40巻第14号 P78~P80